乳幼児健康診査システムの充実と改善に関する研究

分担研究者　平　山　宗　宏

要約

乳幼児健康診査（健診）は地域における母子保健サービスの主たる事業として重要であることは現在、また将来にわたって変わりはないと考えられるが、、そのあり方、具体的な方策については常に検討を行って充実と改善を図る必要がある。このため乳幼児健診システムについて多角的検討を行ったのでその成績を報告する。

① 健診システムについては、まず保健所と市町村の役割分担につきその検討が焦眉の急となっており、大都市と農村地域について具体的に検討を実施した。

② 乳幼児期における問題としては親子関係を中心とする心の問題、父親の役割、5歳児健診の必要性が幼児期の発達や環境の上から論じられ、とくに小児期からの成人病の予防に関連して生活指導、食生活指導の必要性が指摘された。

③ 地域適合性のある教育システムを提唱し、指導者用教材として「乳幼児健診の実際」のビデオを制作した。

④ 乳幼児歯科健診のためのマニュアルを作成し、また健診データ処理用ソフトを開発した。

⑤ 3歳児健診で視力検査を行うことの必要性を示し、ランドルト環字一つを用い、2．5mで測定する方法を開発した。また二次健診の内容についても定めた。

⑥ 母子保健指導に関し地理的条件、生活環境等から指導内容を分類し、整理した。

⑦ 乳幼児健診の場において利用しやすい小型検査器具を工夫し、さらに将来導入を考えるべき診断機器についても考察した。

⑧ 乳幼児死亡率等に代わる新しい母子保健指標につき検討し、保健所運営報告の主要情報のデーターベース化を行って解析した結果、新しい包括的指標の必要性が示された。また分析の内容から地域別の医療・保健特性の問題点指摘が可能となることを示した。

見出し語：　乳幼児健康診査、5歳児健診、成人病予防、健診システム、指導者教育、歯科健診、3歳児視力検査、眼科健診、母子保健指導、健診機器、母子保健指標

研究の目的

地域における母子保健活動の内容は、わが国の社会情勢、地域の生活環境、母子の健康と生活の実態、育児をめぐる考え方、等の変化によってニーズや対応も変わることになるが、それだけに乳幼児健康診査の意義は大きい。一方母子保健サービスをめぐって、保健所と市町村の今後の役割分担の整理は避けて通れない緊急的問題でさえあり、実際的・具体的検討が必要である。こうした重要な時期にあたり、健康診査システムの充実と改善を図り、今後のあり方を策定するため研究を実施した。

研究の方法

次の7小研究班をそれぞれの専門家、研究者によって組織し研究を実施した。

（1）乳幼児健診の体系化に関する研究
（担当研究者：平山　宗宏）

（2）母子保健に関する教育体系の研究
（山下　文雄）

（3）乳幼児歯科健診の体系化に関する研究
（井上　昌一）

（4）乳幼児眼科健診の体系化に関する研究
（丸尾　敏夫）

（5）母子保健指導の体系化に関する研究
（巷野　悟郎）

（6）健診機器の開発に関する研究
（有馬　正高）

（7）地域母子保健レベル評価方法策定の研究
（松井　一郎）

研究の成績

研究結果の内容はこの分担報告書に続けて、各研究者の報告書を添付するので、ここでは概要のみを記載する。

（1）乳幼児健診の体系化に関する研究

乳幼児健康診査の今後の充実のためのシステム化についていろいろの立場の班員による検討を実施し、地域の母子保健サービスにおける保健所と市町村の役割分担のあり方、改善のための具体的方策について報告した。また現在問題とされる心の問題、父親の役割、3歳児以降の健康診査の必要性、小児期からの成人病予防のための指導方法等について検討し、5歳児健診の有用性を報告した。

（2）母子保健に関する教育体系の検討

地域における母子保健担当者である医師、保健婦、栄養士の研修の実態につき検討を加え、地域適合性のある教育システムの提言とそれを確立するための勧告を作成した。また実際の現場における指導者用教材として、「乳幼児健診の実際」のビデオを制作した。

（3）乳幼児歯科健診の体系化に関する研究

3年間の検討のまとめとして、歯科健診において一般に利用し得る指針にむけ、健診目的、診査基準、問診内容、指導基準についての解説、健診結果の評価、指導の方向性、実施上の注意などを整理して、乳幼児歯科健診のためのマニュアルを作成した。また健診データ処理用ソフトウエアーを開発した。

（4）乳幼児眼科健診の体系化に関する研究

乳幼児健診に際しては1次スクリーニングとして問診項目とそれに対応する観察が必要であり、3歳児健診では視力検査が必要であること

を示した。視力検査にはランドルト環字ひとつ視標を用い、2．5mの距離で測定する方式が勧められた。二次健診の内容も提示され、3歳児、5歳児では視力及び屈折検査が必要であると勧告された。

（5）母子保健指導の体系化に関する研究

保健指導にあたっては、月・年齢別の他、地理的特徴を含む生活環境や今日の育児上の問題点、指導にあたる施設など多くの点を考慮しなければならない。これらを検討して指導すべき内容を整理し、保健指導マニュアルの基本を作成した。

（6）乳幼児健診に用いる機器開発の研究

乳幼児集団健診に用いられている診察・診断用器財を調査した上で、それらの改良や試作を行い、有用性を検討した。頭囲等計測器具の改良、聴覚、視運動、注意等の評価のための器具の標準化および環境の整備、運動や心理発達評価のための環境整備などにつき具体的提案を示した。

（7）地域母子保健レベル評価方法策定の研究

乳児死亡率等の従来の母子保健指標は、現在のわが国内の地域比較には使用できなくなっているので、新しい指標の開発を検討した。保健所運営報告の主要情報のデータベース化を行い、年次別、都道府県別の解析と主成分分析結果等の検討から、地域別の医療・保健特性の問題点の指摘が可能となったので、かかる分析的指標表示の重要性が指摘できた。地域の保健指標策定上きわめて有効な試みである。

なお個々の研究の詳細な内容および考察は、次頁以降に添付する。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約

乳幼児健康診査(健診)は地域における母子保健サービスの主たる事業として重要であることは現在、また将来にわたって変わりはないと考えられるが、そのあり方、具体的な方策については常に検討を行って充実と改善を図る必要がある。このため乳幼児健診システムについて多角的検討を行ったのでその成績を報告する。

①健診システムについては、まず保健所と市町村の役割分担につきその検討が焦眉の急となっており、大都市と農村地域について具体的に検討を実施した。

②乳幼児期における問題としては親子関係を中心とする心の問題、父親の役割、5 歳児健診の必要性が幼児期の発達や環境の上から論じられ、とくに小児期からの成人病の予防に関連して生活指導、食生活指導の必要性が指摘された。

③地域適合性のある教育システムを提唱し,指導者用教材として「乳幼児健診の実際」のビデオを制作した。

④乳幼児歯科健診のためのマニュアルを作成し、また健診データ処理用ソフトを開発した。

⑤3 歳児健診で視力検査を行うことの必要性を示し、ランドルト環字一つを用い、2.5m で測定する方法を開発した。また二次健診の内容についても定めた。

⑥母子保健指導に関し地理的条件、生活環境等から指導内容を分類し、整理した。

⑦乳幼児健診の場において利用しやすい小型検査器具を工夫し、さらに将来導入を考えるべき診断機器についても考察した。

⑧乳幼児死亡率等に代わる新しい母子保健指標につき検討し、保健所運営報告の主要情報のデーターベース化を行って解析した結果、新しい包括的指標の必要性が示された。また分折の内容から地域別の医療・保健特性の問題点指摘が可能となることを示した。